

イルカ通信

一般社団法人 小笠原ホエールウォッチング協会

2010年12月1日 No. 039

隔月1回発行
バックナンバーは無料でダウンロードできます
(下記参照)

「製氷海岸にストランディング」

鯨類が生きたまま座礁したり、死体が漂着したりすることを「ストランディング」と言います。10月5日、製氷海岸にイルカが漂着しているとの情報がOWAに寄せられました。すぐさま現場へ駆けつけると、イルカは既に死亡していました。目立った外傷はなく、腐敗も進んでいるようには見えなかったことから、おそらく死後数日以内であろうと推測されました。保存可能な場所もなかったため、その場で解剖を実施しました。

外部形態の観察や写真撮影、計測作業を行い、体長101cm、体重11.2kgの雄であることがわかりました。複数の鯨類研究者に写真を送ったところ、「サラワクイルカ」の可能性が高いとの事でした。サラワクイルカ、小笠原周辺では稀に外洋域で見られる種類です。今回漂着した個体が本種であるとすれば、国内では5例目です。現在、採取したDNA標本を日本鯨類研究所に送付し、種の判定をお願いしているところです。

ストランディングの原因は、地磁気説、地形説、寄生虫説など様々な推測がされているものの、未だに多くの謎を残しており、研究のための情報収集が欠かせません。

情報を寄せて下さった皆様、現場での作業に協力して下さいました皆様、本当にありがとうございました。



製氷海岸に漂着したイルカの全身写真

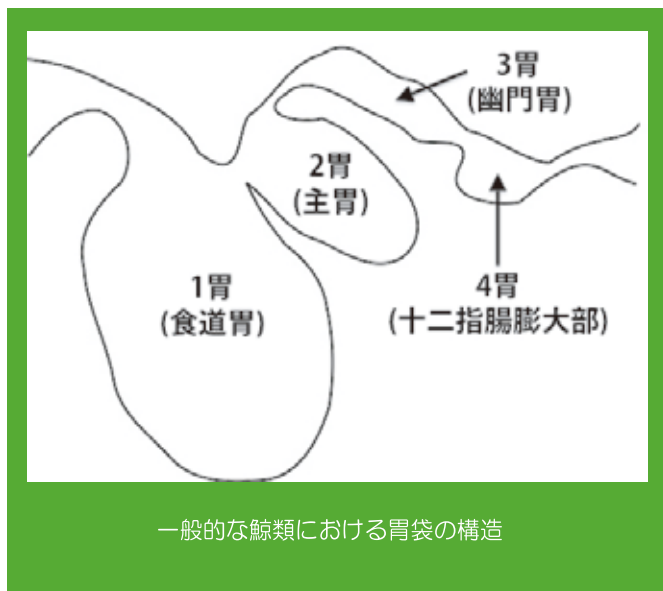
小笠原で前回、ストランディングが起こったのは2003年でした。今後もストランディングの原因解明のために情報収集していきたいと思っております。漂着したイルカやクジラを発見した際には、OWAまでご連絡ください。よろしくお願いいたします。

「イルカの体の中」

今回のイルカ通信では製氷海岸に座礁したイルカについて、お話をさせていただきました。現場ではイルカの解剖を行い、各臓器を標本として採集しました。皆さんはイルカの胃袋の構造についてご存知でしょうか？

普段はウォッチングやスイミングで、良く目にしてはいるイルカでも、体の中までは簡単に見ることはできませんよね。そこで、今日はイルカの胃袋について少しだけお話ししたいと思います。

私たち人間の胃袋は一つしかありません。しかし、イルカを始めとする鯨類の胃袋は、ウシやカバなどの偶蹄類の胃袋と似ていて、一般的には4つの袋から構成されています。それぞれの袋には、始めの袋から食道胃、主胃、幽門胃、十二指腸膨大部と



食道胃は食道の末端が膨らんで、袋状になったもので、消化腺はありません。ここでは胃袋の動きを使って、取り込んだ餌を粉碎します。主胃と幽門胃には消化腺があり、人間の胃袋と同じような動きをもっています。しかし、実際には1番目の胃袋である食道胃で取り込んだ餌のほとんどを消化してしまいます。ちなみに製氷海岸に座礁したイルカの胃袋には何も入っていませんでした。

鯨類は一般的に4つの胃袋を持つと述べましたが、一般的ではない鯨類も存在します。それはアカボウクジラ科の鯨類です。生態も謎に包まれている彼らですが、胃袋の構造も少し変わっているのです。その話はまた別の機会にできればと思います。お楽しみに。